

友達から嫌はれるこども

附属幼稚園 安 村 ふ さ

こどもがこどもらしく振舞つてゐる限り、「あの人嫌ひ」
と判然いはれる事がさう多くあるでせうか。今、幼稚園に
於て嫌はれたこどもに就いて友達から嫌はれるこどもはさ
んな子か考へてみる事に致します。

入園して暫くは眞の自分が十分に出ませんが、だんく
慣れで打さけた樂な氣分になるご多少我儘が出て來ます。
問題はきつと其の時に起ります。其の時に、先づ「あの人
嫌ひ」
「対象にされるのは、其の組での亂暴な子でした。

例へば、わけもなく他人をぶつたり、抓つたり、他人のもの
をこわしたりする子です。この様に振舞ふご、さうされ
たこども達は、その子が體力的に勝れてゐる時は怖がりま
す。それ程でもない時には厭がります。それが、「あの人嫌
ひ」になる様です。私はその子が他人に對してさうした行
動を爲した後の味の悪さにしよげてゐる様な時に、さうし
た行爲は他人の好意的な注意を惹くものでなく、たゞ厭が
られ、嫌はれ、結局切望してゐるのに反して共に遊んでも
らへない、さいふ事を示しました。或ひは語りきかせて、

或ひは友達同志に示させて。何遍も根氣よく繰返してゐる
中に此の子はさうした亂暴をしなくなりました。そして、
たゞ、かつて亂暴だつたといふ印象を残した丈で嫌はれな
くなりました。

其の中に、おせつかいをする女の子が皆の目について來
ました。末の子なので、家で姉達にされてゐる通りを友達
にしようとするのです。

「あなた、かうしなさいよ」「かうするものよ」「そんなこ
こしちやいけないのよ」が、この子の口癖でした。然もよ
くいへば粘り強い、悪くいへばしつゝこい。何時までもく
よくする性質のこどもでしたので、遣り方が念入りで中
々うるさいのです。例へば去年の十一月頃の事でしたでせ
うか、誰か羽根つきを始めました。するご「あら、まだお
正月ぢやないのに羽根つきなんかしてゐるわ、をかしいわ
よ、お止しなさいな。」さわざくさめに行くといつた調
子です。所謂融通のきかない部類の子でせうが、さも自分
は譯が分つてゐるごいふ口調なのです。又、「こつちへいら

「へへへ、おまゝ事してゐるから厭。」「あらさうして私は遊ばないの？ ね、いらつしやいよ、ねえ。先生、誰さんは一寸も私は遊ばないんですよ」さひに来る仕末。他のこごも達の始めた遊びには加はらうさしないで、さうにかして自分のする遊びの方に惹きつけようあらはに努力してゐるのである。それが成功した時には如何にも得意げであり、嬉しさうですが、自分の思ふ様にならぬ時は何時までもしつゝこく何やかやいつた揚句に横目できつい顔をするのです。然もこの子は體力的にも技能的にもそれ程優秀ではありませんでしたので惹きつける力が弱く、何時も不満が多かつたのでした。こんな状態でしたので、友達から「あの人うるさいから厭。」「しつつこいわね」「おせつかいだから大嫌ひ」さいはれる様になりました。

始めは、男の子も女の子もいりまじつて一緒に遊んで居りましたが、その中に男の子は男の子らしい遊びを、女の子は女の子らしい遊びを、それ／＼別れてする機会が多くなりました。女の子達は何時の間にか一人の體の大きい子を中心にして遊ぶ様になりました。其の子は生れも早く、

所謂頭もよく、第一何事にもこせ／＼しないのが取柄でありました。そして中心になつて次々に遊びを考へてはお互ひに協力的な態度で愉快に遊んでゐるのです、かういふ様

子を見るごとに此のおせつかいな子は益々残念らしく、しきりに妨害する様子態度に出ました。そして勢力の挽回にこめてゐるのですがさうすればする程ぬけものにされてしまふのです。そんな時此の子は黙つて涙を浮べて私の方に寄つて来ました、それで私は今度も亦、さうした態度をござる事は皆に厭がられ嫌はれる許りである事をくり返し示しました。其の中、此の子としては妥協かも知れませんが私の望んでゐた態度が少しづゝ見えて来ました。即ち女の子達の遊びは協力し、自分の存在を主張する事なしに愉快に遊びを續けようといふ態度が見えて來たのです。さうなるごとにも達は此の子を仲間に入れる事に吝かではありません。ましてこそもです、何時までも前の事に根を持つてゐるわけではありません、次第に何の不思議もなしに一緒に愉快に遊ぶ様になりました。そして其の後學校ごっこ等の際に字がよく讀めるといふ點から屢々先生に選ばれる程になりました。ある敬意さへ拂はれて、従つて此の子の氣分もぐつと和ぎ凡ての點に落書きが出て来ました。そして今では、かつて嫌ひだつた人といふ感じさへ起させない様になつたのです。

かうして考へてみますと、在園中通じて「大嫌ひだ」等ご爪はじきされる様な子は餘りない様であります。何れも一